

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 <http://www.higurashi.net/> 第0012号
護國青年會議 <http://www.gokoku.net/> 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成17年4月27日

JR 福知山線脱線事故に思う兵庫県尼崎市で25日朝、死者89名、負傷者456名(27日午前5時現在)という悲惨な事故が起きてしまった。この事故は明らかに人災であり、鉄道関係者のみならずタクシー業界から船舶、航空業界まで人名を託される者は2度と起こしてはならないと肝に銘ずるべきである。朝元気に「行ってきます」といつも通りに家を出て、いつも通りの電車に乗ったというだけで、或いはたまたま何かの用事がありこの電車に乗り合わせただけで事故に巻き込まれ、そのまま帰らぬ人となってしまう……。ご遺族の心中を思うとやりきれない思いがします。日頃電車で通勤している人にとっては他人事ではありません。生命の尊さを考えると、与えられた一日を大事に生きなければならないと思います。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。 編集人

支那の権威を失墜させよう 支那で反日を吠える下劣な騒ぎが頻発しています。共産党の一党独裁国家で表現の自由や報道の自由も無い支那でデモが行われることは異常事態であるといえるでしょう。それにも拘らずデモの目的が反日というだけで警備当局は、北京市内の日本大使館や大使公邸が襲撃されても、御座なりの規制をするだけで黙認する始末です。事実デモ隊に向かって「ご苦労様です」と連呼する警官もいたというし、警備担当者の多くは「何で俺たちが日本大使館を守らなければならないのか、デモ隊と一緒にひと暴れしたいぜ」などと思っているのであろう。

町村外相が支那の王毅駐日大使を外務省に呼び「一連の破壊活動は由々しき問題だ」として謝罪と損害賠償を求めたが、王毅は「過激な行動については中国政府は賛成していない。日本人と日本企業の保護は今後もしっかりやっていきたい」とはぐらかすだけで謝罪の言葉は一切なかった。王毅の本音は「過激な行動を政府は賛成はしないが規制もしない。日本人の保護はこれまで通り、御座なりにやっていくよ」というものである。全ての責任を日本に転嫁し、反日を国是とする支那政府が「デモ隊が暴走し、日本大使館などの建物が破壊された事を心から謝罪し損害賠償します」などと口が裂けても言うはずが無い。それを裏付けるように支那外務省の秦剛副報道局長は「歴史問題で日本が誤った態度と行為をとっていることを不満に思う人民が、自発的に行ったものだ」との認識を示し更に「日本が正しい歴史認識を持っていないからだ」と強弁する始末である。「日本が歴史問題で誤った態度と行為をとっている」などとどのツラ下げて言えるのか。歴史を捏造し反日プロパガンダによる愚民政策を推し進めているのは何処のどいつだ。支那の外務省は「(デモは)自発的に行ったものだ」と言うが、大使館近くの路上にデモ隊の帰りの足を確保するために20台もの連結バスが用意されていたことから、自発的どころか組織的で計画的な暴動であったことは明白である。国民の不平不満が政府に向けられることを恐れ、反日を大義名分として愚民たちを操り、煽動して暴動を起こさせているのは他ならぬ支那政府である。



反日破壊活動による被害

日本国民が決して忘れてならないのは、支那は日本のような法治国家ではなく共産党一党独裁の恐怖国家であるというだ。天安門事件からも分かるように支那という国家は、数千万人の自国民を虫けら同然に殺戮する国である。ましてや他国民ならば躊躇いも無く惨殺することは言わずもがなである。愛国無罪を叫び反日に狂った無法国家との友好など幻想に過ぎないというのに、我が国の指導者は性懲りも無く友好を唱えている。更に信じられないのは22日のバンドン会議においてコネズミが、あろうことか悪名高い村山自虐談話を引用し、謝罪演説を行ったということだ。国際会議の場で謝罪することによって支那や朝鮮の口を封じたとして、この演説を評価する似非保守人もいるが、それこそ支那を増長させる誤った考えであると言わざるを得ない。翌日開かれた首脳会談で胡錦濤は、謝罪演説に対し「実際の行動に移せ」と言っているが、この発言が全てを物語っているではないか。胡錦濤の腹の中は「誤るだけならサルでも出来る。心から詫びているなら、言葉だけでなく金をよこせ、教科書の検定結果を見直せ、尖閣諸島とガス田は中国のもの認めろ、靖国には首相は勿論、日本国民も参拝するな」ということだ。謝罪演説が支那と南北朝鮮の「反日トライアングル」による新たな要求と内政干渉の火種にならないことを祈念する。

日本は長い間、ODAの名の下に莫大な援助をしてきたが、支那はその援助金で軍事力を強化して核ミサイルを日本の主要都市に向けて配備し、威嚇している。この事実が、支那は恩を仇で返す国であることを如実に表している。支那が、犯している数々の罪を心から謝罪し、歴史の捏造と反日教育に終止符を打ち、我が国にひれ伏す時が来るまで我々の闘いは続く。

編集人/戸出蒼流